

非
才
又
通
儻

20230703

VOL.9

ONOHOKU

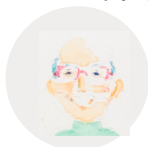
連鶴折形:ISuN



私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

今回の表紙について：折形は礼法の一つ（礼法=礼儀作法の事、内側から現します)(イスン)

最後の晚餐は…皆さんに食べていただくディナーを作る。最後の日まで現そうと思います。



第9回 「人生における最大の達成を受け取る」

トソスンヤン ありがとうございます

もう30年近く前の話です。

マハリシ先生が、「人が死ぬ時にあちらに持っていけるものは幸福だけです。しかし、死ぬ時に突然幸福になることはできません。どのようにあなたが生きてきたかが、それを決めます」とお話しされていました。

ンヤンはその話よりも前に、自分が肉体を離れる時に受け取る達成をはっきりと観ていました。そのため、マハリシ先生のお話がとても印象に残ったのを記憶しています。

それ以来、ンヤンは、その達成を受け取るために、ずっと未来の創造をし続けてきました。

すでにあるその達成は、決して未来の目標ではなく、必ずンヤンが受け取るものなので、そのための準備をしているのです。

死は、人の一生で最大の達成を受け取る時です。

それまでに人は幾度も達成を受け取り、少しずつ達成を大きくしていき、そして死の時に最大の達成を受け取るのです。

今思うと、ンヤンが30年近く前に観た達成はずいぶん小さかったようです。今は、それよりもずっと大きな達成を受け取ろうとしています。

多くの人は、自身の死を最大の達成を受け取る時だと知りません。

ですから、人生のほとんどの時間を無駄に生きて、死ぬ時に幸福になっているどころか、後悔や悲しみや無念さを持って死にます。

どんなに人生で、様々な願望や目標を叶えたとしても、達成を受け取っていないければ、結局その人に残るのは、後悔、悲しみ、無念さだけなのです。

もっと生きていたかった、もっとあれがしたかった、もっとこれを得たかった、など、これらはすべてが目標であり、達成ではありません。

どうか皆さん、一度ちゃんと自分が死ぬときに受け取る最大の達成とは何かを考えてみて下さい。

そして、自分がそれを受け取るためにちゃんと生きているかをみて下さい。

今、それをして、そしてそのために日々を生きていけば、その達成はどんどん大きくなっていき、きっと死ぬときに最大の達成を受け取ることができるはずです。

トソスンヤン ありがとうございます



5/20の祝祭における、純粋な水の達成の証
よく見ると、ちゃんと左右の回転の渦巻きがあります



最後の晩餐は…セミを見ながら柿を食べる！（季節的に無理かー!?!）

第9回 イスン(中畑 真一)さんについて

トソスキツマ ありがとうございます。

今回は、イスン(中畑 真一)さんについてお伝えいたします。



【KIR代表理事】

一般社団法人 コトハ・インテグラルリサーチ代表として業務の執行をされています。
また業務が適切に行われるように理事や従業員を統括されています。

Q1. イスンさんにとってK-PVTとは

A1. 自分で運転はするけれど、進化に連れていってくれる、意識の乗り物。

Q2. イスンさんにとってKIRとは

A2. 贈り合いをもたらす場である。

核となってより大きな世界がひとつになるための全体であり、世界の縮図である。

違う響きがつながるといいよね♡

イスンさんは、ご自身のことを、思っていることや考えていることについて、上手にはっきりと言葉にすることができない。とおっしゃいます。もしも我々KIR職員全員が、イスンさんの響きを感じ、そのまま表現することができたなら、すべての人の尊厳を尊重することができる。そう感じております。

トソスキツマ ありがとうございます。



植物から自然知性を学ぶ

ツケオ

第9回 人参の順を追った展開に永遠の光の円環構造を観る

トソスツケオ
ありがとうございます。

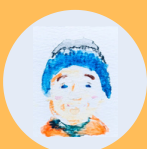
最近の今治畑では、人参の花が咲いています。
今治畑の人参は去年の9月に種を蒔きました。
そして今年の6月になり花を咲かしています。
人参の花が咲くまで9ヶ月の期間を経ています。
そして、人参の花から種ができるまで2ヶ月ぐらいの期間が必要です。
ほぼ1年をかけて、種を植えてから次の種ができます。

これは、G1の種がG9として達成を受け取ったことを意味しています。
そして、このG9の種は、次年度のG1の種として目覚め・現れ・戻りの循環を繰り返していきます。
自然界では種が発芽して、花が咲き、種が地面に撒かれて、新たな花が咲く循環を永遠に繰り返しています。

自然界の植物は、この順を追った展開というものを自然に行っています。
人もこのように自然界の流れに逆らわずに、自然界の流れに沿って順を追った展開で生きることが、もっとも自然なことだと理解できます。
そして、自然知性に寄り添って自然に生きることが、階層構造を具現化して生きて進化につながるのだと、今治畑の人参をみて感じます。

人参の成長段階から、ヒトも目覚めたときには、人参の循環のように光の円環構造を永遠に続けることを感じ、永遠というものを知ることが出来ました。

トソスツケオ
ありがとうございます



最後の晚餐は…永遠の目覚めとなる。

第9回 大三島の農業

トソスワナム

ありがとうございます

大三島もすっかり梅雨となり、梅雨の合間の晴れの日も夏に向かって、気温が上がってきています。そして午前中に晴れていても、お昼頃になると雷雨に見舞われることが多くなってきました。大三島は瀬戸内海の真ん中にあるので、積乱雲が発生しやすいのかと思います。

大三島は恵みをもたらす島とされており、私たちが7次元以上への移行を具現化するための絶対の価値の農作物を創造する為に移住してきました。

その足がかりとして、キオマ食堂で提供されている無農薬の純粋な野菜を作られている農家さんのところに毎週、一年を通してどのように作物を栽培しているかを学びに行っています。

一切の農薬や化学肥料を使わず、自然の中に本来備わっている循環を大切に、太陽、空気、水、昆虫、土壌、野菜それぞれをつなぐ、自然栽培や有機栽培を取り入れた有機農業を実践されています。

大三島に移住された方の中には、農業を目的に移住された方も多くいます。そのほとんどの方が、無農薬の有機農業を実践されています。研修に行っている農家の方も10年程前に移住されてきました。

今後、島には移住される方が増えていき、こういった有機農業が当たり前になされていくのだと思います。

トソスワナム

ありがとうございます。



第9回 鉛

トソスヤリノ ありがとうございます。

絵について。

鉛筆を持って絵を描く時、基本的に3つの選択肢があります。点を置く、線を引く、面を作る、です。

この3つは本来階層構造として捉えることができます。

達成に目覚め、鉛筆の先を紙に置いたらそこに点が現れます。自身の光の質を現そうという意図のもと、鉛筆を動かすとそこに線が引かれます。線が効力によって響きとして具象化し、達成の証を観てそれを具現化した時、そこに面としての絵が完成します。

子供の頃のヤリノは、日曜画家だった祖父に褒めてもらいたくて絵ばかり描いていました。自身の真実を感じることも、反応として絵を描き続けて来たのです。だから、絵における点、線、面という要素を階層構造として捉えることはできず、ただカルマとして鉛を紙に擦り付けて来ました。

大人の期待に応えたり、大人が褒めてくれることを期待したりといった反応からではなく、真実を現すための手段としての絵を、多くの子供達が描くようになったら。

その時、光を現す人たちの世界がここにあるとヤリノは確信します。

ヤリノがカルマとして絵を描いて来たのは、それを実現するためだったのでしょう。

トソスヤリノ ありがとうございます。



第9回 他者に光を観ようとする

トソスワトホ ありがとうございます。

すべての人の本質は光です。その人が何をしても、どのような姿であっても、その人に自分がどのような印象を持っている、その人の本質が光であることは変わりません。他者に光を観ようとすることは、その人を赦すことであり、その人を手放すことです。

他者に光を観ようとすることを続けていると、自身の内側にも光があることがわかるようになります。そのことを、自身に向き合う、と言います。それは、どんなに弱く、惨めな自分であっても、どんなに憎しみを持っている自分であっても、自分を赦し、そんな自分を手放していく、ということです。

K-PVTは、自身に向き合い、内側にある光を直接体験し、それを響かせ現すためのものです。この技術を続けることで、人は日常において自然に他者に光を観て、自身の内側の真実を体験しそれを現して生きることができるようになっていきます。

トソスワトホ ありがとうございます。



第9回 梅仕事

トスナエン ありがとうございます

先日、キオマ食堂でみんなで梅干しを漬ける仕込みをしました。
これまで味噌作り、たくあん作りをしてきましたが、梅干しを漬けることは初めてでした。
始まりの口上儀礼で、とても自然に声が響くなあと一体感と心地よい感覚があり、前々前回の味噌作りの時にも感じた『これは達成へのライン』という確信を持ちました。

水を通してチーム全体が活動を展開していく予感があり、梅を蒸して漬ける、という未知の工程での試行錯誤をしつつ、それぞれの動きの中で光を現わしている瞬間がきらきらきらちりばめられていたように感じました。とても和やかに光に包まれていました。

ひとつの達成へ向かうときの過程は、案外スムーズで容易く進むように感じます。もうそれしかないという一本道、それが絶対の栄光の道なんだなあと、知識が前後して教えてくれることで、確信を深めていくことができます。

すべてが完璧。

蒸した梅の水分を拭きとらなくてよかったのかというたったひとつの心配事を除いては。

それも込みで、達成オーライ！なのかもしれません。

みんなの意識が向けられて仕上がる梅干し。

順調に梅酢が上がってきており、完成が楽しみです。

トスナエン ありがとうございます



第9回 その9

トソステケエ
ありがとうございます。

今号の原稿の締切をとっくに過ぎていているというのにまだ何も書いておらず、明後日が発行日。編集長はカンカンですね。毎度すんません。

前回に続き、先日「効力診察」を受診し、自身の効力がまたひとつ明らかにになりました。おそらく今の自身が、その効力を最も顕著に使っているであろう場がこのチケカフェであり、もしそうであるなら、ハーブティーのブレンド、別名「あなたに光を観ようとするんだっ茶」を小皿の上に展開し、小さな花束をお渡しするようにお客さまへお出しするとき、その効力を使っているであろうと薄々感じていたことがヒントになりました。

言語化されたその効力を目にしたとき、闇を見つめるマスター（ちけえの反応3階建ての一番表層部分）である自身の中では、何か受け止めきれないものがあり、なんだかんだと思考を巡らせていたのですが、そもそも効力は他者のために使ってなんぼ。受け止めきれないってアンタ、別にアンタが受け取るんじゃないし。

その人だからこそ現すことができるはずのものを現さずに、他の誰が現せるというのか。上っ面で生きるわたし。いつまでたってもわたしを現さず、見なかったことにしようとするわたし。むかーし通っていた某整体で、「なんかね、他人事みたいなんですよね。潜在意識の方がね、ちらっと顔を出すんですけど。それ以上は出てこない。何か恐れがあるんでしょうねえ」と言われたときのこと。また、某講座で、「自我は、どんな手を使ってでも“わたし”を守ろうとする」「自我だけが、本当に自身が進む道を知っており、“わたし”を超えてその先に進むために自我がある」と学んだことを思い出しました。

あのさあ、ほんとはもっと強いんじゃないの？
その強さ、まずは誰かのために使ってみたらいいんじゃないの？

続く。

トソステケエ
ありがとうございます。



最後の晩餐は…みんなで光のチケーキ食べましょ。
裏ちけえ：クリームシチュー（お母さん、冷凍しててください）。

コトハを学び、ミコトを生きる

ワラン

第7回 全体性なぞなぞ

トソスワラン
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ワランです。
今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第7回です。

コトハの知識を学んでいると、度々「全体性」というワードが出てきます。
全体性とは、全体は部分が統合されたものであり、全体と部分は同じ（1=3）であることを言います。

例えば、少年たちが野球選手になりたいと思って野球を始めるとき、ある少年は本を読んで野球のルールを覚えることから始めるかもしれません。また、ある少年はキャッチボールやバッティングの練習を始めるかもしれません。さらに、ある少年は素振りやランニングで体を鍛えるかもしれません。

ルールを覚えるというのは知的な理解であり、キャッチボールやバッティングは技術の習得であり、素振りやランニングは体作りです。

いずれにしても最終的にはこれらすべてを身につけて初めて野球選手としてプレーすることができます。どれが欠けても成り立ちません。野球選手は、野球というものを知的に理解している自分（主体）、それを行うに相応しい身体（客体）、そして、それを現すための技術（過程）が1つに統合されたものなのです。

この世界には至るところに全体性があります。KIRでは「全体性なぞなぞ」を企画していますので、ぜひ皆さんも身の回りで全体性を発見し、KIRまでお知らせください。

トソスワラン
ありがとうございます



最後の晚餐は…光に包まれ、草花が輝く森のガーデンで。

第9回 ただそのように意図していく

トソスキリヲ
ありがとうございます

皆さまこんにちは。
気候が安定しない毎日ですが、いかがお過ごしですか？

今治では、町に点在している田んぼに水が張られ、水鏡に映る景色や、景色の上を飛び交うトンボを見るのが、日々のささやかな楽しみになっています。
水面に浮かぶ景色は、目の前の景色よりも明るく、透明で、光輝いているように見え、もしかしたらこの輝きこそがこの世界の真実なのかもしれないな、と感ずてみたり、そんなことを感じさせてくれる水の効力について、思いを巡らせてたりしています。

真実といえば、先日、自身の執着の先にある真実を垣間見たような場面がありました。
執着の先、というより、執着という覆いの中に、真実らしきものがあることを認識できた例えるべきか。まずは真実があり、それを覆うように執着がある、といった仕組みに気づいた、という感じかもしれません。

そのとき感じた真実らしきものは、胸の中をじわじわと温めてくれるような感じがし、単純で、とても静かで、静かすぎて、それをどう現せばよいのかよくわからず、今現在、正直なところ困っています。
でも「困っている」ということは、もしかしたら、このキオマ通信のキャッチコピーである「私たちは あなたに光を観ようとし、真実を体験し、それを現そうとします」に取り組んでいるということかもしれない、今はただ、それを意図していればよいのかな、と思ったりもしています。

皆さまはどのようにご自身の真実を体験し、どのようにその真実を現そうとされていますか？
機会があれば、ぜひ皆様のお声もお聞かせください。

それでは、次回は約2週間後のオノホのメ、新月の日にお目にかかれますよう。
本号もお読みくださり、まことにありがとうございます。
2023年7月3日、オノホのク、満月の日に。

トソスキリヲ
ありがとうございます



最後の晚餐は…赤ワイン風ぶどうジュースで乾杯する。
炊き立てご飯と、米粉の野菜餃子をたくさん焼こう（餃子包み隊を募集しないと！）。

光の生命体「マ〜星人」-3-

マ〜友達のマ〜ライオンとマ〜メイド



マ〜星人はマ〜マ〜しながらつながっています

マ〜星人!? と思われた方はこちらへ





KoToHa *Integral Research*